

SafeCare®

養育者とお子さんの関係性をより良くする在宅支援


虐待ネグレクトのリスクや通告歴のある家族を対象とした、エビデンスに基づく家庭訪問型のペアレント・トレーニング(ペアトレ)プログラムです。米国のセーフケア・ナショナルセンターと提携し、日本文化に馴染むように修正を加えながら、2023年より日本で初めて導入します。

本事業は、文部科学省 科研費基盤②「虐待予防・親子再統合のための訪問型ペアトレ・プログラムの開発と効果検証」(研究代表者:山岡祐衣)、ならびに、日本財団からの助成事業、一般社団法人SafeCareJapanにて運営しています。

Supported by  **THE NIPPON FOUNDATION**

01 SafeCare®とは

しくみについて




養育者


対象

- 1 お子さんが未就学児(6歳程度まで)
- 2 虐待ネグレクトのリスクがある家族
 - ☑ 要保護児童対策協議会の対象となっている家族
 - ☑ ショートステイなどのサービスを利用している家族の中で親子関係の改善が望まれる家族
 - ☑ 一時保護解除後や措置解除後の再統合ケース

一緒に家で練習



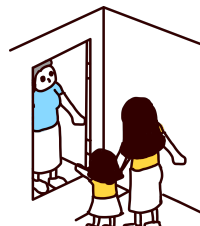
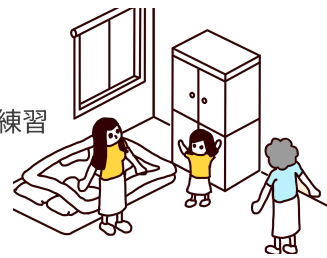

週1回
1時間
3-4ヶ月



訪問員

<p>科目1 親子の相互交流/親と乳幼児の相互交流 Parent-child/infant interaction: PCI/ PII</p> <p>未就学の子どもの場合 (18ヶ月以上~6歳以下)</p> <p>練習するスキル より良い関わり方を増やすスキル 問題行動を減らすような関わり方をするスキル</p> <p>ゴール 遊びや日常生活の活動を行いやすくすることを目指します。</p>	<p>科目2 家庭内の安全 Home Safety</p> <p>内容 家族と一緒に危険となりうるものを見つけて、片付けたり除去したりします。</p> <p>目的 虐待・ネグレクトのリスクがあると、不慮の事故も起こりやすいことが知られています。 子どもが普段過ごしている部屋の危険物を減らすことで、不慮の事故を予防することができます。</p>
---	--

流れについて

- 1 **アセスメント**
初回の訪問

- 2 **スキルの練習**
2~5回目

- 3 **科目の終了**
6回目
+到達目標に達するまで延長


02 SafeCare®を受ける利点

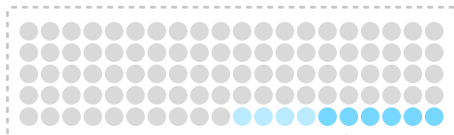
SafeCare®の特徴

- 1 **家庭訪問型のペアトレプログラム**
家での普段の親子の関わり合いを直接観察することができます。
- 2 **養育者が実践しやすい**
訪問員がやってみせるモデリングとロールプレイを行って練習します。
- 3 **スキルによる評価**
訪問する度にペアレンティングスキルを繰り返し評価し、スキルの達成度に応じてプログラムが終了となります。

SafeCare®による効果

- 1 **虐待再通告の減少**
1000家族に家庭訪問すれば、64-104家族の1年以内の児相への再通告を予防できることがランダム化比較研究で示されています。
- 2 **ペアレンティングスキルの向上**
- 3 **養育者のうつ症状の改善**

家庭訪問



64-104
1000

児相への再通告を予防!

03 SafeCare®の導入について

訪問員について

対象
子ども関係・家庭訪問プログラムの職歴研修
家族へのスキルの説明・モデリング・練習・フィードバックのやり方を習得サポート
セーフケアの認定コーチが訪問員の相談を受けたり、訪問員の実施内容を定期的に確認したりします。
→プログラムの目的に沿った訪問の実施度を評価します。

お問い合わせ

一般社団法人 SafeCare Japan
<https://www.safecarejp.com/>

